

■第 11 回精神障害者自立支援活動賞（リリー賞）受賞者 【当事者部門】

うつ病と闘いながら音楽療法による精神障害者支援と音楽活動を両立させるオペラ歌手

榎野 綾(まきの あや)さん 42 歳【大阪府大阪市】

(NPO 法人なでしこ 副理事長 / NPO 法人メトロポリタンオペラ大阪 理事長)

オペラ歌手として世界各地でリサイタルを開催するなど国際的に活躍していた榎野綾さん。しかし、活動拠点としたアメリカでうつ病を発症。日本に帰国し、うつ病との闘いを続け、シングルマザーとしても奮闘しながら、現在は障害福祉サービス事業所において音楽療法による精神障害者支援を行っている。関西二期会オペラ公演でメインキャストを演じるなどオペラ歌手としても第一線で活躍しながら、精神科領域における音楽療法の重要性を認識し、当事者とコンサートを行うなど地域で交流活動を行っている点が評価された。

●異国の地でうつ病を発症、失意の中での帰国

オペラ歌手として活動しながらアメリカで結婚、2004 年に 1 児をもうけた榎野さん。しかしその後うつ病を発症。異国の地で相談できる友人もなく、起き上がれなくなるまで踏ん張り続けたが、「病院の診断テストではすべての項目にチェックがつく状態でした。そのとき初めて、ああ自分は病気なんだな」と。限界を感じた榎野さんは日本に帰国、摂食障害も経験し、さらにはシングルマザーとなってうつ病と闘い続けることとなった。

●音楽療法との出会い「音楽の持つ力を実感」

体調に波はありながらも、通院と服薬を続けながら徐々に音楽活動を再開していった榎野さん。「NPO 法人なでしこ」に出会い、「音楽を障害者の方々に教えてほしい」との提案を受け、2013 年 4 月、同法人が運営する障害福祉サービス事業所の音楽療法担当職員として活動を始めた。毎日 10 人ほどが榎野さんの指導のもと、自分の好きなポップスを歌ったり、楽器を弾いたりしている。「皆さんを指導しているとは思っていません。私のほうが、同じ精神障害者である皆さんから力をいただいている」と榎野さん。音楽の持つ力をあらためて実感し、障害者の自尊心の回復、障害者理解への啓発活動につながると、日々の成果を年 3 回のコンサートで家族や地域の人々に披露している。

●オペラ公演の実現を目指して

音楽療法を通じて他の当事者と交流するうち「自分の考えも前向きになってきた」という榎野さんは、2014 年 4 月、オペラの啓発・振興・発展を目的に「NPO 法人メトロポリタンオペラ大阪」を立ち上げた。独自の企画によるオペラ公演の実現を目指し、精神障害者の方にも出演してもらえるように考えている。

●“自分のための音楽”から“人のための音楽”へ

「今は音楽療法を通じて、他の当事者と協力しあって生活している。そのこと自体が、自分にとってはリカバリーだと思う」と話す榎野さんは現在、日本音楽療法学会認定音楽療法士の資格取得を目指して更なる勉学に励んでいる。今後は音楽療法の啓発にも力を入れていきたいという。



国内外で数々のコンクールに入賞し、フランスの音楽院を審査員全員一致の特別賞と共に卒業した榎野さん



「障害は個性だと思う」と榎野さん。リリー賞への応募は、勤務する事業所の利用者が勧めてくれた（コンサートの日に利用者やスタッフのみなさんと）



これまでに 4 枚の CD を発売。3rd アルバム「Heart of Classic」では、病床にある人の癒しになるようにとの思いを込めて自ら選曲も行った